

第2回学びのコミュニティ研究会「堀江の実践から考える」実施報告書

学びのコミュニティ研究会堀江支部

- 1 日 時 平成25年1月12日(土) 15:00~17:15
- 2 会 場 権現温泉
- 3 テーマ 「学社連携・融合で学びのコミュニティを創造する」
- 4 概 略

本研究会会員を中心に、学校、地域、社会教育、行政、ボランティア関係者、研究者等様々な立場の方49名が本研究会に参加して、熱い議論を交わした。第1部では、讃岐会長のあいさつからスタートして、久保田公夫前堀江公民館長(元中学校長)の特別講演「学校と地域がとけあう学びの創造」を拝聴する。その後、堀江の実践発表をプレゼンで紹介され、成果と課題及び本日のワークショップの課題をそれぞれの立場から提起された。学校(遠藤校長)、PTA(眞鍋PTA会長)、地域(長尾公民館長補佐)から出されたワークショップでの課題は次のとおりである。

A 学校課題

- 学習指導要領の改訂に伴って、指導内容が増え、授業時数も増加している。今まで通りの学社融合の活動が学校の教育活動の中で十分できにくくなっている。愛媛県教育委員会から学力向上の強い指導も入っている。本校では有意義な学社融合の取組をさらに充実して取り組んで行きたい。学校、地域ではどのような対策を講じればいいのかのだろうか。

B PTA課題

- 世代が変わり、保護者の意識の変容が見られる。地域との関わりに消極的になってきているような傾向も見られる。また、共働き家庭が増えており、平日にPTA活動に参加することも難しい状況である。学社融合の活動を推進する場合、PTAが架け橋となる役割を果たすことが重要である。今後、PTA活動の在り方や保護者への意識啓発をどのようにすればいいのかのだろうか。

C 地域課題

- 学社融合を推進してきた人が高齢化している。後継者を育成することは切実な問題である。どのように後継者を育成していくことがよいか。
- 学社融合活動での小中との連携や近隣地域との連携についても視野に入れて発展させたい。どのように展開していけばいいのかのだろうか。

ワークショップは、12人程度の4グループに分かれて行われた。そして、それぞれのグループで45分程度話し合わせ、報告会を行った。短い時間であったが全員が参加したワークショップになった。そして、最後に青山学院大学鈴木眞理先生がアドバイスをしてくださり、第1部を終了する。

「実践を語る夕べ」と題した第2部は、当日参加もあり、30名が堀江の実践を酒の肴に熱く語り合った。権現温泉での冬の研究会、いい湯加減の心が和む研究会だった。

(1) 讃岐会長あいさつ

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。大津のいじめ問題等で、学校は何をしているのかという声が聞こえますが、学校はくたくたであります。先生方は疲れ切っています。子どもの教育を学校だけに任したらいけません。家庭も崩壊しているところもあります。地域コミュニティも壊れているところもあります。今こそ、地域でみんながスクラム組んでいかなければならぬ時代です。そんなことから、この「学びのコミュニティ研究会」を立ち上げることになりました。今日は、堀江の実践から学びます。最初に、学校経営、地域経営にユニークな取組をされてきた久保田先生の講話、そして、学社融合の取組についての紹介、そして、ワークショップでよりよい学びについて話し合った後で、最後に青山学院大学鈴木真理先生に総括していただきます。学校だけでは教育はできない。家庭、地域がスクラム組んでこそ、子どもが育ちまちづくりもできてくるのです。

(2) 特別講演「学校と地域がとけあう学びの創造」前 堀江公民館長 久保田公夫氏

はじめまして。久保田でございます。ここで学社融合をスタートしたのも讃岐先生の講演を聞いてからです。そして、10年前、仙波さんに松山市のモデル校をと依頼を受け、モデルはお断りしましたが、先駆けになるパイロット校という名称ならばということで申し出を受けたことを昨日のここのように思い出します。特別講演ということにはなりません、10年間の歩みを報告して、講演に変えさせていただきます。

学校は学校、地域は地域ではいけない。学校は地域の教育力を生かさぬ手はないということで、どうしても融合しなければならぬという思いに駆られたのであります。「地域の子どもは地域で育てる」のが本来の姿であります。当時、星野校長、桐野教頭がおられ、学社融合にとっても理解がありました。公民館から話が行く前に、学校では「学校と地域がとけあう教育」の話を教職員研修でしていました。正に、啐啄同時であり、「天・地・人」に恵まれていました。

方針としては、単発のイベント的、モデル的行事でなく、「学校・PTAと公民館を核とした地域住民が一体となって、継続かつ協働の内容をもった事業とする。」ということでした。そして、学社融合を推進する機関を三つ作り、学社融合企画委員会は委員長を堀江小学校長とし、学社融合推進委員会では堀江公民館長を委員長とし、学社融合運営委員会では堀江小学校PTA会長が委員長としたのです。

この事業が継続するために、「ふるさと歴史再現カーニバル」と「命と風土の輝き：収穫祭 in ほりえ」を立ち上げました。地域の歴史を知る活動と年間を通した農業「栄吾米づくり」を行うことが学社融合には適しているという考えのもとで行いました。いろいろ大変なこともありましたが、様々な人のご協力で学社融合が継続してできるようになりました。やり残したこともありますが、学社融合で堀江の名前も少しは有名になりました。傲慢な態度を慎み、謙虚に、そして「徹底した誠意の前には頭を下げる」ということを自分への戒めとして、これからもお役に立てればと思います。(※ 詳細資料)

(3) 堀江の実践発表

※ パワーポイント資料参照

(4) ワークショップ（主な意見）

【学校課題について】

- ・学力向上は時間をかければかけるほど成績が上がるとは限らない。家庭での復習や生活習慣をきちんとして向上を図ることが大切である。
- ・コミュニケーション能力を高める必要がある。
- ・学校は忙しいと言って、協力的ではないことが多いので考えてほしい。
- ・学社融合の必要性を学校から説くことが大切になる。
- ・学社融合での学びが学力向上につながる。
- ・学校の授業内容を理解して、それに沿った内容の活動を行う。
- ・学校と公民館が事前に話し合い、計画を密にしていくことが必要である。
- ・学校へは学校の事情があるので口出ししないが、学校からの依頼は万全で受ける。
- ・PTA活動が活発なところは、学力が高い傾向がある。
- ・全国的にみて、愛媛県は特活の時間が多いのが気になるが地域とのかかわりが多いので減らすことは困難な学校も多い。各学校で工夫したい。
- ・どの学校でも共通の課題である。子どもの思いをもとにスリム化しながら、地域の教育力を取り込むことが必要である。
- ・学校の門を開放して、校内に地域の方の居場所を提供してほしい。
- ・学校の捉え方を見直さなければならない。学力向上のために特活を減らすことはいいことなのか考えてほしい。
- ・地域がしっかりしている方が学力も高い傾向がある。
- ・4年生は5年生になりたい。その行事は大事にしていかなければならない。
- ・学校を拠点としていると集まりやすい。
- ・教員は地域の活動を知らねばならない。
- ・活動を教育課程内、教育課程外とスミ分けしていかなければならない。



ファシリテーターの眞鍋さん



ワークショップの発表

【PTA課題について】

- ・学社融合の行事や活動を何のためにやっているのか多くのPTAは理解していない。
- ・学校にPTAや地域が関わる意味づけを徹底して、学校、市、県などが周知する。
- ・PTAはやらされている感があるので、経験した友人からの口コミや実際にPTA活動を体験してもらうことが必要である。
- ・共働き等の家庭も多くなっているので、時間を短くすることが必要である。
- ・総会前に授業参観、進路指導、修学旅行の説明等を入れるなどすると、総会の出席者が増える。
- ・参観日の平日開催は無理がある。学校からの案内があれば、地域－学校、PTA－学校のつながりが深まる。
- ・地域が学校を守っているという形が望ましい。
- ・おやじの会をもっと活用したい。
- ・PTAは他校の情報を知る機会があればよい。
- ・PTAの失敗事例や課題を共有することも必要である。
- ・出たがらない人にも実際に体験させたい。
- ・学級PTAの存在が少なくなっている。この会を大切にしたい。
- ・お父さんが熱心になれば、活性化する。誘いをかけることが大事である。

【地域課題について】

- ・町内の催事でも参加して来ないことが多い。地域の人材育成が必要である。
- ・学校が必要な人材の情報を発信する。
- ・堀江の活動は地域に根ざした活動でよい。
- ・門を開放してほしい。そうすれば遠慮はなくなる。
- ・参加した者全員が楽しい、元気になれるという気持ちになる方向性が必要である。
- ・「ほりえみらいくらぶ」の活動がユニークである。
- ・地域の掲示板をもっと活用してほしい。
- ・中学校は小学校の宣伝をし、中学校は小学校の宣伝をすることがよい。
- ・子どもに夢をもたせる、将来に期待する教育が学社融合である。



10年目の泥ん子ゲーム大会、開催！

(5) 鈴木先生の総括

「堀江」のイメージがすっきりしないので、今日、東京から参加してきた。話を聞いて、また、こんがらがってきた。いろんなことがたくさんあって、たくさんの人がいろんなことをしているというのが分かった。すっきりなんてできるはずがない。それだけたくさんのことを行っているのだから。気になるのが「子ども」を意識するあまり大人がどうなのかと心配する。多分、「子ども」にかかわりながら、大人の世界を充実させるのだろうと解釈している。「堀江」は動かし方が実にユニークである。大変参考になる。

ワークショップで課題を考えていたが、なぜ、課題を考えるのだろう。課題、課題と言わないで、いろんなことをいろいろやっていくのが生涯学習、社会教育の分野ではないだろうかと思う。他のところのマネじゃない。久保田先生は久保田先生、そういう先導的に行動できる人のやることを邪魔しないでほしい。そういう人が今後出てこなくなるのは周りの責任である。だから、やる気のある人が地域のためにどんどん活躍するのを応援してほしいと私は思っている。



讃岐会長あいさつ



久保田氏の特別講演



堀江の実践発表



迷司会 仙波事務局長